

2018 年度企業家研究フォーラム賞の選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員会委員長

原 拓 志

著書の部

著書の部では、次の作品が受賞作となった。

中 村 尚 史（東京大学）著

『海をわたる機関車——近代日本の鉄道発展とグローバル化』

（吉川弘文館，2016年2月）

本書は、明治期における日本の機関車の調達の変遷について、日本のみならず海外の史料も多く調べあげて分析した労作である。英米独の機関車製造業，日本の鉄道業，日本の商社，日本の機関車製造業が，日本の鉄道発展にどのように寄与してきたかが描かれる。グローバルな視点を備えた日本の産業史，経営史としての学術的貢献のみならず，現代のグローバル経済における経営への示唆も大きいことから，フォーラム賞に選ばれた。

論文の部

論文の部では、次の作品が受賞作となった。

沈 政 郁（京都産業大学）・SEA-JIN CHANG（National University of Singapore）著

“When does transitioning from family to professional management improve firm performance?”

（*Strategic Management Journal*, 36 (9), September 2015, pp. 1297-1316）

本論文は、日本企業においては、同族経営者から専門経営者への移行について、家族がサイレント大株主となった時，創業メンバーでない家族経営者が譲った時，専門経営者がエリート大学の出である時に成果が向上することを，推定バイアスを取り除く工夫などを凝らした精緻な計量分析を用いて明らかにした。研究方法の堅実性の追求とファミリービジネス研究に対する貢献から，フォーラム賞に選ばれた。

特 別 賞

特別賞は、東京大学名誉教授の大東英祐先生と、シリーズ出版企画『日本の企業家』（全13巻、PHP研究所、2016年11月～2018年2月）に差し上げることになった。

大東英祐先生は、ほぼ半世紀にわたって、アメリカ経営史、日本経営史、比較経営史の各分野における研究をリードされてきた。特に、日米における労務管理史で重要な業績を数多く残され、加えてラインハルト・ベンディックス『産業における労働と権限——工業化過程における経営管理のイデオロギー』の共訳もなされた。時計産業史やマーケティング・流通史に関する業績もあり、最近では『化学工業Ⅰ——化学肥料』『化学工業Ⅱ——石油化学』を執筆されるなど、広い範囲で日本経営史、比較経営史の発展に大いに寄与された。また、東京大学、東北大学、埼玉大学、埼玉学園大学などで教鞭をとられ多くの研究者や実務家の育成にも当たられた。大東先生のこれらの学問的営為を称え、特別賞を授与することを委員会において満場一致で決定した。

『日本の企業家』（全13巻）は、渋沢栄一、松下幸之助など日本を代表する13人の企業家の活動を、その多くが企業家研究フォーラムの会員でもある国内第一級の経営史および経営学の研究者が結集し、それぞれに確かな史実、学術的研究をもとに多面的に捉え直し、その現代的意義の論及をも試みた図書シリーズの企画・出版である。本シリーズの企画・出版は、歴史に残る業績であり、企業家研究フォーラムの設立趣意を具現する活動でもある。この功績を称え、このシリーズの企画・編集の労をとられた大阪大学名誉教授の宮本又郎先生、甲南大学特別客員教授・神戸大学名誉教授の加護野忠男先生、このシリーズの企画・出版を実現された株式会社PHP研究所社長の清水卓智様に特別賞を授与することを委員会において満場一致で決定した。